フォトネクスト 2022 通信誌 Vol.2　2021/12/10
主催事務局：株式会社プロメディア
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-5-3 西新宿ダイヤモンドパレス 1105
TEL 03-6302-0801 / FAX 03-6302-0802

NEXT INFO ②

コアビジネス拡充と新サービス創造

フォトビジネス業界に求められるリアルイベントへ

記録を残すことを習慣化

あらためて家族写真の大切さ訴求

一般社団法人日本おひるねアート協会が運営する「家族写真プロジェクト」。2021 年 11 月 18 日にオンラインで行なった「PHOTO**NEXT**2022」開催概要説明会にて同協会代表理事・青木水理氏にゲスト出演してもらい、あらためて家族写真の現況や同プロジェクトの活動状況についてうかがいました。

同プロジェクトは「家族写真を通じて家族の絆を再確認し、大好きな人に大好きを伝えるツールとして写真を活用する。写真を撮る前に家族の関係性を深め、その形として写真を残す」という考えのもと、日本おひるねアート協会の新プロジェクトとして展開。Mission（使命）として「写真を通じて家族の絆を深めるお手伝い」、Vision（望む世界）として「すべての家庭に家族写真が飾られている世界」、Value（信念）として「まず私たちから家族を大切にしよう」を理念に掲げています。

その主な特徴としては、①話す：「どんな家族でありたい?」「どんな家族写真を撮りたい?」家族で対話する、②撮る：①で出した自分たちが考える「私たちらしい家族写真」を撮影する、③残す：撮影した写真をプリントしたりパネルにして飾ったりフォトブックなどにして形に残す、④話す：写真を見ながら感想を話し合ったり文字にする――を挙げています。

毎年 10 月 23 日を「家族写真の日」として制定し、家族の時間を意識的に作るとともに、記録を残す習慣を作ることを呼びかけています。2021 年も、さまざまな企業がキャンペーンを展開したり、公式ツイッターでもハッシュタグとともに話題となるなど盛り上がりを見せました。

2022 開催概要説明会・特別トークセッション資料より

日常を特別に！家族写真が人気のワケ

家族写真に関する調査（出典：fotowa）結果では、納品された写真だけでなく「撮影時間そのものが思い出になった」という声も挙がっており、「プロのフォトグラファーに写真を撮ってもらうことそのものがエンターテイメントの 1 つとして受け入れられています」（青木氏）ということです。

同じく fotowa の調べでは、「コロナ禍において子どもの思い出になる『家族イベント』は足りていると思うか?」という質問において「やや不足している」と回答した人が 43.8%と最も多く、次いで「とても不足している」が 33.3%、「ある程度足りている」が 15%、「わからない」が 5%と続き、「十分足りている」の 2.9%と大きな開きがある。一方で家族写真の需要は年々増加しており、2019 年に比べて 2021 年は約 20 倍にまで伸びました（1～6 月の同期比）。

そうしたなかで、家族写真プロジェクト主催のスタジオ・フォトグラファー向けコンテスト「家族写真グランプリ 2021」が行われました。青木氏は以下のような想いを込めて、本コンテストの開催に臨みました。

「『新しい家族が誕生した』『我が家に迎え入れた』『家族の形が変わった』『家族になった』――人生の節目で、あるいは日常で『家族』を意識し、大事に思う瞬間。『この日を記念に残したい』と思い、人は写真を撮りに行きます。それは決して、特別な出来事があったとか、人生の節目など、何か大きなことがなくても『私たちは家族だ』と実感する出来事は日常にありふれています。

そんな 1 人ひとりのご家族の記念日や日々の歴史を一緒に綴っているのは町の写真館であったり、あるいは身近なフォトグラファーなど『寄り添う第三者』で、その存在が欠かせません。家族写真プロジェクトは、そんな『お客様の人生に寄り添う』気持ちを写真に込めて、言葉で伝えることができるスタジオやフォトグラファー

にフォーカスし、応援していきたいと思いました。

『誰かの人生の記録人になれる』そんな素晴らしい役割を担っているスタジオ、フォトグラファーの存在をたくさんの方に知ってもらい、同じ想いで『共にいる』ことが誰かの人生の小さな支えになることを伝えていきたいです」

家族写真グランプリは今後も継続して実施

今回、家族写真グランプリの開催にあたり、意識したこととして「被写体となるご家族とフォトグラファーとの距離感」を挙げた青木氏。先に触れた通り、一般投票を経て二次審査に進むので、応募したフォトグラファーのなかには「私の作品に 1 票お願いします!」と呼びかけた人もいたようです。一方で、あえて情報をシェアせずに票を獲得していた人もいたようですが、多くの票を集めたフォトグラファーに共通して見られたのは、「多くのお客様とコミュニケーションを取っていた」ということ。

一般投票の際に、投票者がコメントを入力できる欄が設けられた。それらのコメントを見ると、多くの家族（お客様）に支えられているフォトグラファーが多く、また（撮影してもらった写真を）気に入っているお客様も多くいたのが印象的だったようです。

家族写真グランプリは、一般投票を取り入れるとともに、審査基準も作品の出来栄えのみならず「言葉」にもフォーカスし、写真とともに「物語」にもスポットを当てることで、「その写真を撮ったときには、どのようなストーリーがあったのか」という想いも込められた作品が多く集まりました。一般的なフォトコンテストとは一線を画し、「家族写真を撮ることの意義」を感じ取ることができる機会となったことは間違いないでしょう。

家族、写真、言葉を大事にしながら撮影ビジネスを展開するスタジオ、フォトグラファーの作品を募集し、第 1 回目ながら多数の応募がありました。映画「浅田家!」のモデルとなった写真家・浅田政志氏を審査委員長に起用するとともに、各業界のプロフェッショナルを招致して審査を行ないました。第一次審査に通過したのは 134 名。一般投票では 12,000 以上の票が集まり、二次審査には 34 名が通過しました。最終審査を経てフォトスタジオ部門およびカメラマン部門の総合グランプリ、総合準グランプリ、エリア別グランプリ等が選出されました。

フォトスタジオ部門の総合グランプリは、スタジオエアーの「縁側で家族写真を」、カメラマン部門の総合グランプリは佐藤健介氏の「まだまだ一緒に喜びを分かち合いたかったよ」に決定しました。株式会社プロメディア発行の月刊誌「スタジオ NOW」では、受賞作品とともに記事掲載（1 月号ではフォトスタジオ部門、2 月号ではカメラマン部門の総合グランプリ作品を表紙に掲載）。また受賞作品は、「PHOTO**NEXT**2022」のギャラリーにて堂に展示いたします。

家族写真の概念について、青木氏は「どんな姿でも、どんな形でも、離れていても、会えなくなっても、その存在を想うことによって、心が温かく幸せな気持ちになれる――それを私たちの考える家族と位置付けました」と語ります。

株式会社アスカネットや株式会社ラボネットワークなど「PHOTO**NEXT**」でもお馴染みの企業をはじめ、数多くの企業が協賛（本誌発行元の株式会社プロメディアは後援）として関わり、第 1 回目にして成功裏に終了した「家族写真グランプリ」。今後も継続展開していく予定で、賛同企業を随時募集しています。

加盟条件は、家族写真プロジェクトの趣旨に賛同し、啓蒙活動を一緒に行う意思のある企業および団体となっています。

特典としては本プロジェクトのホームページ（https://kazoku-syasin.com/）にロゴ掲載するほか、本プロジェクト賛同企業として各取り組みの案内、啓蒙活動への参加などがあります。

2022 のギャラリーコーナーも充実した内容になりそうだ（写真は 2021）

環境再構築
～ Update ～

2022 年は、これまでに私たちが取り組んできたことが、現在の、そしてこれからの時代にも通用するものとなっていくのか検証、実践につなげていくとともに、新しいマーケットの創出に向けて「環境再構築～ Update ～」をキーワードに掲げます！

① コロナ禍の写真需要をさらに押し上げ！

- ■ いまホットな「フォトウェディング」、新たな挙式・パーティープランの実態は？
- ■ ステイホームで家族の絆が深まるなかで求められる「家族写真撮影プラン」は？
- ■「プリント」という形に残す価値を消費者へいかに訴求していくか？

▶各種企画コーナーやセミナープログラムで大々的に提言

② 動画を中心とした新世代撮影ビジネス創出へ

- ■ ウェディングや学校、建築などの現場で広がるドローン撮影
- ■ 公式サイトから YouTube 制作まで、需要創造につながる地方創生
- ■ ハイクオリティムービーを軸とした B to B ビジネスの可能性は？

▶ビジネスフェアならではの
充実したケーススタディ＆ソリューション提案

《人気イベント継続開催》

◎ アウトレット

商品ジャンル別にゾーニング予定。好評の衣装展示即売も実施！

◎ ギャラリー

新登場の「家族写真グランプリ受賞作品展」から、毎年注目の「こどもとかめら写真展」まで、見応え満載の内容！

《公式 HP 随時更新》

各社商品・サービスのユーザーレビュー記事ページを用意。公式 LINE アカウントをはじめ SNS での告知や、月刊誌「スタジオ NOW」にも掲載。ブース出展との連動にもつなげられます。

最新情報をお届け！ ご登録ください!!
《フォトネクスト公式 LINE アカウント》

PHOTONEXT 公式サイト
www.photonext.jp

NEXT INFO

次号予告

新企画プログラムの注目ポイント

次回の見どころを紹介！！

①セミナー・イベント骨子
②出展ブース紹介
③会場構成、ほか

《PHOTONEXT 情報満載の月刊誌》

撮影ビジネスの現場からいまを伝える情報誌「スタジオ NOW」（写真は 2021 年 12 月号）。会期本番に向けて、見どころやお得な情報をたっぷり掲載。最新トレンドも含め、大々的に発信いたします！

主要スケジュール　※変更になる可能性があります

◎第 1 次申し込み締め切り：**1 月 31 日（月）**
◎最終申し込み締め切り：**2 月 28 日（月）**
◎出展社説明会 / 小間割抽選会：**3 月 18 日（金）**
◎搬入日：**6 月 6 日（月）**
◎会期：**6 月 7 日（火）～ 8 日（水）**

「PHOTONEXT オンライン」協賛のお願い

· PHOTO**NEXT** 来場対象者へ最新情報をお届けするオンライン企画に、パネリストとして参加しませんか?「PHOTO**NEXT** オンライン」は、自社製品やサービスをアピールいただく絶好の機会です。オンライン特典や今後実施予定のキャンペーンに加え、2022 年にブース出展をご検討いただいておりましたら、出展内容とともに PR する場としてご活用いただけます。

· 本イベントは事前登録制で、参加者には申し込み時に名前やメールアドレス等を記載いただきます。その情報を一覧にしてお渡しいたしますので、今後の販促にご利用いただけます。また、本イベントの開催中にチャットで寄せられた内容もテキストデータにてご提供いたしますので、本番中に対応できない場合でも、終了後に参加者へコンタクトを取ることができます。

· 当日のライブ内容は収録し、参加者へお届けするとともに、当日ご覧になれなかった方々のために、PHOTO**NEXT** 公式ホームページおよび SNS にて、「PHOTO**NEXT** オンライン YouTube チャンネル」をご案内。またプロメディア発行の月刊誌「スタジオ NOW」にも記事掲載させていただきますので、終了後も広くアピールすることが可能です。

· 出演時間は 1 社様につき 30 分間、出演料は 88,000 円（2021 年 · 2022 年の出展社は無料）。詳細およびお申し込みは、info@photonext.jp まで。

オンラインによる情報発信は継続して実施！
斬新な企画・アイデアもお待ちしています！！

PHOTO NEXT 2022

フォトグラファーズ＆フォトビジネスフェア

2022 年 6 月 7 日（火）～ 8 日（水）

パシフィコ横浜 B ホール

www.photonext.jp

主催：**株式会社プロメディア**
主催団体：**写真感光材料工業会**
日本フォトイメージング協会
一般社団法人日本写真映像用品工業会
特別協賛：**日本営業写真機材協会**

NEXT INFO ②

● 本冊子は PHOTO**NEXT** 関連トピックをまとめた通信誌です。
● 開催概要説明会では、2021 年の会場の様子を中心とした VTR を上映しました。ご覧になりたい方は、主催事務局まで。出展申込を開始しております。第 1 次締切までにお申し込みいただくと、ブース抽選の優先権が得られます。
● PHOTO**NEXT** に関するお問い合わせは主催事務局まで（TEL：03-6302-0801、FAX：03-6302-0802、メール：info@photonext.jp）。